

平成30年度 継続被災地支援活動「福島県への継続文化支援活動」報告

【福島応援伝統人形芝居公演】

- 1) 日程 平成31年2月27日(水)～3月3日(日)
- 2) 場所 二本松市1会場、郡山市1会場、福島市3会場の計5ヶ所で公演を実施。
- 3) 参加劇団 さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座(11名)、竹本信乃太夫、鶴澤弥栄(義太夫2名)
照明スタッフ(1名)、音響スタッフ(1名)
- 4) 公演記録

月/日(曜)	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
2/27(水)	18:30	二本松市地域文化伝承館 二本松市鈴石町361-1	「二人三番叟」 「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」 「祝い唄」	100名
2/28(木)	13:30	郡山市介護付老人ホーム いまいずみ荘 郡山市富田町字中ノ11-1	「二人三番叟」 「東海道中膝栗毛 卵塔場の段」 「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」	62名
3/1(金)	11:00	飯野学習センター 2階ホール 福島市飯野町字境川19-2	「二人三番叟」 「東海道中膝栗毛 卵塔場の段」 「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」	200名
3/2(土)	10:30	福島市子どもの夢を育む 施設こむこむ (わいわいホール) 福島市早稲町1番1号	《第一部：ふれアートinこむこむ発表会》 「二人三番叟」「立ち回り」「日高川入相花王 渡し場の段」 《第二部：あしり座公演》 「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」 「祝い唄」	183名
3/3(日)	13:00	郡山市中央公民館 郡山市麓山一丁目8-4	《一部：高倉人形復活プロジェクト発表会》 「二人三番叟」「立ち回り」「さくらさくら」 「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」 《二部：あしり座公演》 「本朝廿四孝 奥庭狐火の段」	462名

5) 写真で見る公演及び調査記録

①二本松市地域伝承館



- 二本松市伝承館での公演は5年目となったが、今年も事前配布の整理券がすぐになくなり、受け入れを担当してくださっている二本松市教育委員会のみなさまのご協力や、楽しみにしてくださっている地元のみなさんがいてくれることは大変ありがたいことだと思う。
- 上演後は人形でお客様をお見送りし、「毎年楽しみにしている」「また来てほしいです」とたくさんの嬉しいお声掛けをいただいた。

②介護付老人ホームいまいずみ荘



➤郡山市にある老人ホームでの上演。数年前に人形劇を上演させていただいたご縁があり、9月に起こった北海道での地震の際には心配をし暖かいお声掛けとご支援をいただいた。

➤今回は入居者の方やご家族、地域の方にご覧いただき、近い距離でアットホームな雰囲気であった。

③飯野学習センター



➤福島市と川俣町で私たちの活動をサポートしてくださっている矢吹さん、今泉さんの紹介で、飯野町で開催されている「飯野つるし雛まつり」のイベントの一つとして上演をさせていただいた。急なお願いにも関わらず、実行委員会のみなさんが宣伝活動などに動いてくださりたくさんのお客様にご来場いただくことができた。

➤上演前には、会場の周辺を人形を持って練り歩き宣伝を行った。町のあちこちで可愛らしいつるし雛が飾られており、手作りのあたたかいお祭りの雰囲気も味わうことができた。

④福島市子どもの夢を育む施設こむこむ

《ふれアート in こむこむ発表会&さぼろ人形浄瑠璃芝居あしり座公演》



➤当日のリハーサルも含めてたった5回の練習での発表であったが、子どもたちはよく集中してがんばった。

➤緊張をしながらも楽しそうに人形を遣っている姿に、お客様からたくさんのお拍手をいただくことができた。

➤色々な小学校、中学校から集まってくる子どもたちがこのワークショップを通じて仲良くなっていく様子は、私たちにとっても保護者の方にとっても嬉しい姿である。

⑤郡山市中央公民館

《高倉人形復活プロジェクト発表会&さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座公演》



- 直前のリハーサルも含め、全 9 回で開催してきたワークショップの発表公演。今年 2 年目となる活動であるが、地元の方達の熱心な取り組みに大変注目が集まり、テレビの取材や新聞などに多く取り上げられていた。
- 昨年度よりも大きな会場で発表会を行うことになり、プロジェクトのメンバーも不安がっていたが、会場がほぼ満席になるほどのたくさんのお客様にご覧いただくことができ注目度の高さや活動への期待が感じられた。
- 公演には、郡山市長にもご観覧いただきたくさんの市民に応援され、子どもたちが立派に舞台を努めている姿に感激されている様子だった。

【人形浄瑠璃体験ワークショップ】

- 1) 日程 平成31年2月27日(水)～3月3日(日)
 2) 場所 長期ワークショップ(全7回):福島市子どもの夢を育む施設こむこむ、日和田公民館
 短期体験ワークショップ:二本松市地域文化伝承館、いまいずみ荘、飯野学習センター
 3) 参加劇団 さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座(11名)、竹本信乃太夫、鶴澤弥栄(義太夫2名)
 4) 実施記録

①短期体験ワークショップ

月/日(曜)	時間	会場	内容	参加者数
2/27(水)	18:30	二本松市地域文化伝承館 二本松市鈴石町361-1	公演の中で体験ワークショップを実施	100名
2/28(木)	13:30	介護付老人ホームいまいずみ荘 郡山市富田町字中ノ目11-1	公演の中で体験ワークショップを実施	62名

②長期体験/人形浄瑠璃体験ワークショップ『ふれアート』

月/日(曜)	時間	会場	内容	参加者数
3/1(金)	16:30	福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ	『ふれアート』inふくしま 4回目	13名
3/2(土)	9:00	福島市早稲町1番1号	『ふれアート』inふくしま 5回目	13名

③長期体験/復活!高倉人形プロジェクト・人形浄瑠璃ワークショップ

月/日(曜)	時間	会場	内容	参加者数
2/28(木)	17:00	日和田公民館 郡山市日和田町字小堰23-4	こども対象 7回目 三人遣いワークショップ	21名 (子21)
	18:30		おとな対象 7回目 三人遣いワークショップ	7名 (大人7)
3/2(土)	18:00	郡山市中央公民館 郡山市麓山一丁目8-4	こども対象 8回目 三人遣いワークショップ	20名 (子20)
	19:30		おとな対象 8回目 三人遣いワークショップ	8名 (大人8)
3/3(日)	9:30		こども・大人対象 9回目 三人遣いワークショップ	28名 (子21、大人7)

5) 写真で見る公演及び調査記録

①二本松市地域文化伝承館



➤ 公演の中で、人形の解説と体験ワークショップを実施。短い時間であったが、地元の方が人形を動かす姿に他の観客も喜んで歓声を送っていた。

②介護付老人ホームいまいずみ荘



- 公演の中で、人形の解説と体験ワークショップを実施。近い距離で人形に触れていただいた。
- 終了後は人形と記念撮影を行うなど喜んでいただくことができた。

人形浄瑠璃体験ワークショップ『ふれアート』inふくしま

①3/1 (金) <4回目>・2 (土) <5回目/発表会>



- 12月の稽古からずいぶん期間が空き不安もあつてか、子どもたちが自らわからないところを質問してくるなど積極的に、そして集中して稽古に取り組んでいた。

復活！高倉人形プロジェクト・人形浄瑠璃ワークショップ

①3/2 (土) <8回目>・3 (日) <9回目/発表会>



- 子どもチームは、今回の発表会では高学年が中心となり主遣いを担当し人形に安定感がでてきた。
- 大人の方達は子どもたちにも気を配りつつ、自分達も自主練習を重ねるなど本当に熱心で、高倉人形復活にかける熱意が伝わってくる。様々な夢を思い描き形にしようとする地元のみなさんのパワーに私達も刺激を受ける。良い発表ができるよう可能なかぎりサポートしていきたいと思う。



《以下、備忘録として／2011年やまびこ座・こぐま座の支援活動のスタートを記録したブログより転記》

2011-06-20

がんばれ東北！

あしり座矢吹、6/17(金)より福島県に行っています。本日は福島市から飯館村を通り、津波の被害が大きかった南相馬市へ。福島滞在中に、保育所など計3ヶ所で人形劇を上演してきます。三人遣いではありませんが『おさる』の三番叟で、明るく！楽しく！

天下太平、国土安穩をお祈り。東北の復興を心より願って。 投稿者 AI 時刻: 21:16



2011-06-28

福島報告・矢吹ノートより



郡山市の保育園の先生より「外遊びの現状」。

0～2歳児:15分(1日)、3～5歳児:30分。

「今までできていたお散歩ができないことに小さい子どもたちも疑問に思い始めている」放射能で外に出れない、遊べない子どもたち／町は、普通に歩いている人もいれば自転車に乗っている人もいる。マスクなしで歩く大人。「結局ここで生活していかなければならない」／無関心にならざるを得ない。孤立、見放されているという失望感。あきらめ／「逃げ出したいが行政に相談する窓口がない」／「子どもたちの"年間被ばく量"を減らしたい」1ヶ月でも違ったところに保養に行くだけでも違う。サマーキャンプや疎開など。保護者はそのような事業を必死で探している状況。需要はかなり多い／「できることなら、みんな福島から出ていきたいと思っている」／「爆発後の2・3日、子どもたちが外での水汲みなどを手伝ってくれた。今考えればなんてひどいことをさせてしまったのか…悔やまれる」／「これは戦争です。ただ普通の戦争は敵が見えるが、今回は敵が見えずどうしたらいいか」／「福島を忘れないでほしい」／「声を伝えて欲しい」



【※6/17～22 福島県(福島市、郡山市、二本松市、南相馬市)に行っていた矢吹のメモノートより福島県の方達の言葉】



ここに書いたのはほんの一部ですが、たくさんの方たちの切実な声がかかれていました。大変な災害を受け、「衣食住」の最低限の生活もままならない被災者の方たちがいまだ多くいる中で、『芸能』の必要性の是非が問われています。「まだ早い」「もっと先にやるべき重要なことがある」etc…それも真実。札幌でも文化施設やアーティストの方たちが集まり、被災者支援に何ができるのかを考える講演会が開かれるなど、自分たちにできることを模索している人がたくさんいます。「被災地」と一言でいっても、地域によって被害の大きさや置かれている状況は違い、必要とされる支援の形も様々なのではないかと思います。矢吹のメモを見ていると、津波の被害こそなかったけれど、「見えない敵」と戦っている福島市や郡山市では、子どもたちが外で遊ぶことができず部屋の中で過ごすしかない状況があり、文化的な支援が必要な場所の一つであるように感じました。芸能には、人を楽しませる、喜ばせる、もてなす、癒しの力がある。



幼稚園での人形劇上演後、矢吹が先生にかけられた言葉。「ひさびさに大笑いしました。本当に楽しかった。笑い声が溢れていることの大切さをあらためて実感しました。」

求めている人がいます。何かできることがあります。

投稿者 AI 時刻: 01:04